

「～な」と「～の」について：漱石と?外の場合

著者	?岡 昭夫
雑誌名	電子計算機による国語研究
巻	9
ページ	70-101
発行年	1978-03
シリーズ	国立国語研究所報告 ； 61
URL	http://doi.org/10.15084/00001056

「～な」と「～の」について

——漱石と鷗外の場合——

靄 岡 昭 夫

1. はじめに

宮島達夫氏が国立国語研究所論集2『ことばの研究2』所収の「いくつかの文法的類義表現について」という論文の中で、「～な」と「～の」のゆれの問題を、「現代雑誌九十種の用語用字調査」のデータによって考察している（99ページ）。

しかし、その他には、この問題について、実際のデータに基づいた考察は見られないようである。それは、このような研究の場合、用例探しに手間も時間も多く要することが大きな原因であると考えられる。

現在、国立国語研究所では、「漱石・鷗外の用語研究」のテーマのもとで、computer を用いた研究が行われ、各種の文脈つき索引（KWIC 索引）がファイル化されている。この論文は、その KWIC ファイルから「な」と「の」の用例を収集して考察を加えたものである。従って、用例収集の手間と時間を軽減することができた。

本稿で対象としたのは、夏目漱石の『坊っちゃん（51079語）』『草枕（50358語）』、森鷗外の『雁（44749語）』『山椒大夫（12797語）』『寒山拾得（3599語）』を主とし、問題になる語は同じ作者の別な作品を参考にした（上記作品の語数は、S単位による。単位については、国立国語研究所報告59「電子計算機による国語研究Ⅷ」の8ページ以降参照）。

本稿では、漱石・鷗外の語法にかぎったが、それは手間と時間と computer に蓄積されているデータとの三つの点からそういうことになったのである。本稿筆者は、さまざまな文章についても「～な」と「～の」の問題の実態を明らかにしたいと思っている。そういう点から言えば、本稿は、前の宮島氏の論文

と併せても、現代日本語での実態の、ほんの一端を明らかにしたにすぎない。しかし、このような論考を積み重ねることが、現代語の実態をとらえる唯一の着実な方法だと本稿筆者は考える。

2. 五作品での用法

本稿で集めた用例は前節に記した、宮島氏論文の用例採集の方針に従った。宮島氏論文ではだいたい、「な」のほうは連体用法および「～なのは、～なのが、～なのを」の形をしているものをすべて選んでいるが、「～の」のほうは、ひょっとすると「～な」に置きかえられるのではないかと考えられるものも多目に採集してあるようである。それは「な」におきかえられるか、られないかの区別の明白でないケースが少なくないからであろう。本稿でも基本的にはその線に沿っている。

なお、他のことばの後に来る結合要素（接尾語・助詞など）のうち、結合した全体で「～な」となり得るもので、結合のしかたも一般性を持っているもの、たとえば「的（質的・武士的）」「同様（畜生同様、重鎧固同様）」「程（それ程、父親程、死ぬ程）」「くらい・ぐらい（教頭位・負けん位）」などは、「…的」「…程」「…位」のように、…を用いて結合要素としたことを表す。また、接頭語は後と切りはなさずに、全体を一語とした。ただし、敬語の接頭語「お」「み」「ご」などは、切り離したものを採った。それは、これらの接頭語が、待遇に関係するだけで、構文的・語彙的な問題には関わりがほとんどない、と考えたからである。

また、この研究は、表記に関することを調べることが目的ではないので、語形は「現代かなづかい」によることにした。しかしかなばかりだと読みにくくなるので、適宜漢字をあてることにした。この場合も、字体はなるべく現行のものに改めた。そして、同語と認められるものは表記が異なっても同一の表記形に統一してある。たとえば、「徐か（しづか）」と原本にあっても、「静か」と書かれ、「しづか」の位置に並べられているのである。

こうして集めた用例を、「～な」の形だけで用いられているもの、「～の」の形だけで用いられているもの、「～な」「～の」の両方の形で用いられているも

の、の三つに分けて表にすると次のようになる（出典は、題目の先頭の字をもつて、『坊っちゃん』は「坊」のように表す。また、個々の用例は稿末に一括してあげる）。

（注）「そう（な）」「よう（な）」は助動詞的傾向を持ち、語形も安定しているようなので除外した。しかし、「ふう（な）」は語形のゆれが見られるので除外せずに採り上げた。なお、「そうな」は『坊っちゃん』に16例、『草枕』に13例、『雁』に9例、『山椒大夫』に4例あり、また、「ような」は『坊っちゃん』に64例、『草枕』に42例、『雁』に106例、『山椒大夫』に28例、『寒山拾得』に5例ある。

リスト

① 「な」・「なる」のみが付くもの（「なる」の数は（ ）内）

（語）	坊	草	雁	山	寒	（語）	坊	草	雁	山	寒
明らか		1				苛酷				1	
鮮やか		1 (1)				かすか		1 (2)	2	3	
有体		(1)				堅気			2		
憐れ	1	2				…がち			(1)	2	
安価		(1)				格好		1 (1)			
安全				1		勝手	4	2			
異		2				下等	1				
いい加減	1	1	1			寛	1				
意外			4			頑固	1				
粋（いき）			2			巖畳				1	
偉大		1 (1)				感心	1				
いや	2	1	8			閑静	1				
異様		1	1			簡単	1				
陰気			2	1		黄		2			
薄っぺら	1	1				危険					1
うららか		2				気障			1		
上の空		(1)				奇体		1			
ウンベファンゲン			1			気の毒	3	2	3		
鋭敏			2			急			1		
鋭利			1			窮屈		1	1		
艶		(1)				急激			1		
横風	1					器用			1		
おおよう			1			仰山	1				
臆病	1					強烈			2		
おっくう			1			嫌い	4	2			
愚（おろか）	1			1		気楽	1	2	1		
雅		1				きれい	3	6	2		
可哀相	1					謹直	1				
凱切	1					屈強		1			

(語)	坊	草	雁	山	寒	(語)	坊	草	雁	山	寒
…げ		1	3			純朴	1				
軽快		1				順良	(1)				
軽躁	1					峻烈			1		
軽跳	1					…性(しょう)	1				
軽薄	1 (1)	1				正直	2		2		
けち	2		3			清浄(しょうじょう)					2
結構	2	4				上手		1			
潔白	2					少壮			1		
下品	1					上品	1		1		
下劣	1					親切	2				1
健康			1			迅速	1				
厳重	2					親密					1
高尚	1					好き	4		3		1
好人物	1					素直			1		
豪胆	1					清潔			2		
幸福		1				盛大	(1)				
公平		(1)				贅沢	1				
高慢ちき	1					精緻		1			
巧妙	2					拙			(1)		
荒涼			1			せっかち	2				
古雅		2				…千万	2				
小綺麗			2			善良	1		1		
滑稽		1				相応			1		
古風		2				疎遠					1
こまやか		(2)				俗		1			
混淆		1				粗暴	1				
盛ん			1			粗末				1	
爽やか			1			ソラネル			1		
サンチマンタル			1			大事	3	2	2	2	
残念	1					大層				1	
しあわせ			2			大変	6	1			
四角		2				平		1			
静か	1	6 (2)	1	1		巧み		(1)			
失敬	4					確か	1			3	
しなやか		(1)				達者	2	1	1		
自分勝手	1					単純	2		1		1
地味			1			淡泊	2				
洒落		1				緻密			1		
重大	2					痛切			1		
殊勝				1		つつましか			1		
醇		(1)				罪	2		1		
純粹	1	(2)				丁寧	1				

(語)	坊	草	雁	山	寒	(語)	坊	草	雁	山	寒
適當			1			不人情	4	1			
手近			1			不必要		(1)			
手持不沙汰			1			不愉快		1			
同然	1					不埒	1				
…同様	1					分明		1			
とんきょう			1			平穩			2		
頓珍漢	1					平氣	1	4			
名代		1				下手	1	1			
なだらか		1				別		1			
生意氣	4 (2)					べらぼう			1		
滑らか			1			変	3		3		
難儀	1					法外	1				
賑やか	1		4			暴慢	1				
柔和			1			負け嫌	1				
のどか		4				まじめ	1		1		
呑氣	4	4				真赤	1				
ばか			1			真黒		1			
破格			1			真青				1	
派手		1				真白		1			
華やか		(1)	1			真直	2	2			
晴やか			1			まばら				1	
煩瑣		1				妙	17	10	2		
卑怯	4					無意味			1		
非常	1	1	2			無邪氣		2		1	
美妙		1				無勢力	1				
卑劣	2					無節		(1)			
ファタリスチック			1			無鉄砲	1				
不可能			1			無頓着		(1)			
不機嫌			2			無分別			1		
不規則		1	1			無法	1				
不潔					2	無闇	1				
不見識	1					無理			2		
不作法		1				明瞭		(1)			
不仕合		1	2			迷惑			1		
不思議	7	5	2			面倒	4		1		
不自然		1				猛烈		(1)			
不実		1				や	4				
不浄	1					厄介	3				
不確か	1					野蛮	1				
不都合	2					野卑	1				
物騒	1	1	1			やわらか		1			
不つつか				1		幽遂		1			

(語)	坊	草	雁	山	寒
悠長	2	1			
有名	1				
愉快		2	1		
好い気			1		
容易	1	1			
陽気		1			
余計	7	2	4		
余程		1			
磊落	1				

② 「の」のみが付くもの

(語)	坊	草	雁	山	寒
当り前				1	
余り			1		
有り合わせ			1		
いい具合			1		
…以上		1	1		
一人前	1		1		
一種			2		
一定		1			
色黒		1			
内気		1			
うやむや		1			
大勢			2	5	1
お定まり			1		
温良篤厚	1				
格別			1		
過分			1	1	
怪訝			1		
けちゃん坊	1				
…固有		1			
御用多	1				
言語道断		1			
最良			1		
様々		1			
…質	1				
充分		1	1		
種々			4		
潤沢		1			
上等			1		
丈夫	1				
尻上り			1		
尋常	1	2			

(語)	坊	草	雁	山	寒
染	1	1	1		
乱雑	1				
乱暴	1	1			
利口	1		1		
立派	7	4	5		
冷静			1		
怜悯			1		
碌	4				
露骨		1			

(語)	坊	草	雁	山	寒
心配		1			
随分		1			
捨身			1		
…性(せい)					1
絶対		1			
相当	1				
…相当	1				
壮烈		2			
大分				1	
…だけ	4	6	10	2	
多少		2	1		
…たて			1		
他人行儀			1		
多人数					1
多量		1			
…づくめ			1		
常		4	1		
…程度		2			
手頃		1			
当然	1				
…とおり	1	1			
…どおり	2				
…とか			1		
特異		1			
特殊		1			
年上			1		
突然		1			
…なし			1		
…並	1		3		
何らか			1		
念入り		1			

(語)	坊	草	雁	山	寒
…管			3	1	
早起き			1		
半可	1				
悲惨			1		
必須		1			
飄逸		1			
無愛想	1				
不安		1			
不可思議		2			
不調和			1		
不毛		1			
全く			1		
未完			1		
水入らず			1		
…向き		1	2		
無垢			1		

(語)	坊	草	雁	山	寒
無限		2	1		
無言		2			
無実			1		
無数		1			
無用			1		
無論		1			
盲目					3
持ち前			1		
以ての外	1				
尤も	1				
山出し			1		
幽明		1			
ようよう			1		
よそ行き		1	2		
弱虫	1				
…流			1		

③ 「～な」「なる」を含む」と「の」との両方が付くもの

●「一な」「一なる」(「なる」は()内)

(語)	坊	草	雁	山	寒
あいにく		1		1	
…色		2	1		
色々	6	8	4		
円満	(1)	1			
寛大	1				
…位	13	2	2		
…さ	1				
至当	1				
大切	1			3	
大抵	1				
…だらけ		1			
…的	2	3 (1)	3		
同様		1			
特別			1		
…許り		(1)			
遙か		1 (1)			
非人情		3			
…風	2		1		
風流		1			
…程	2	8			
…まま		(2)			
満足	1		1		
冥漠		(1)			

●「一の」

(語)	坊	草	雁	山	寒
…の		1			
…の		7	4	1	1
…の	1		2		
…の		1			
…の	1				
…の	8	2	6	1	1
…の	1	1	3		
…の	1				
…の		1			
…の	2		1		
…の	2	1	1		
…の	1	4			
…の		1			
…の	1	1			
…の	5	5	6		
…の		2			
…の		5			
…の	1				
…の		1			
…の	3	20	8		
…の		6	3		
…の	1				
…の		2			

3. 考 察

3-1 量的な考察

前節のリストをもとに、うしろに「な」「なる」「の」のつく語を、3つのうちのどれがつくかでまとめたものが〔表1〕である。たとえば『坊っちゃん』では「一な」だけの形で現れるものが109語、「一な」「一の」の形で現れるものの9語ということになる。また、逆に、「な」「なる」「の」の前に来る語について、異なり語数とのべ語数を出したものが〔表2〕である。この表からはたとえば『草枕』では「一な」の形で用いられているものが異なり語数で86語、述べ159語数で語あるということがわかる。

この二つの表から、同じ漱石の作品で、総語数もほぼ同じである『坊っちゃん』と『草枕』でも、前者のほうが「一な」の形が後者より多く、「一なる」「一の」の形は逆に後者のほうが前者よりも多いということがいえる。これは前者が口語的色彩の強い文章であるのに対し、後者が文語的色彩の強い文章であるということに起因しているように感じられる。

また、この二つの表から見ると漱石と鷗外との間にも違いが見られるが、このことについては後で述べる（→3.3）。

〔表1〕

作品 後に 付くもの	坊	草	雁	山	寒
な	110	72	93	17	11
なる	4	17			
ななる	2	5			
の	21	39	51	11	7
なの	9	9	3		
なるの		3			
ななるの		2			

〔表2〕

作品		坊	草	雁	山	寒
異 な り	一な	121	88	96	17	11
	一なる	6	27			
	一の	31	55	54	11	7
の べ	一な	236	162	152	24	14
	一なる	7	29			
	一の	50	91	101	16	9

3—2 現代語との差

漱石も鷗外も明治時代の人といえる。したがって、その用語も現代とは異なっているはずである。しかし、現代語の実態はあまり明らかなではないので、ここでは本稿筆者が見て気の付いたことについていくつか述べるにとどめる。

まず第1に、前節リスト②の「一の」の中にある「充分」という語であるが、『草枕』でも『雁』でも「充分の」の形で用いられている。現代語では「充分の食料」というより「充分な食料」のほうが自然であるような気がする。鷗外では主な資料とした作品以外で『青年』『高瀬舟』に各1例ずつ「充分の」が用いられており、この語は「充分の」の形がほうが当時としては一般的だったとも考えられる。しかし、漱石の『硝子戸の中』には「充分な」が2例用いられており、この件に関してはもう少し検討を要するようである。

つぎに、前節リスト③の「遙か」についても、「遙かの」が2例で、「遙かな」「遙かなる」が各1例となっており、「遙かの」のほうが多いようである。漱石の他の作品では、『行人』の3例、『夢十夜』の2例と、すべて「遙かの」の形で用いられている。「遙か」という語は、少なくとも漱石の用語としては「遙かの」の形が一般的であった蓋然性は高いようである。なお、鷗外では『雁』『山椒大夫』『寒山拾得』『青年』『高瀬舟』『普請中』の各作品に「遙かな」「遙かの」「遙かなる」の形はいずれも見られない。

前節リスト①に、「好人物（な）」とあるのも気になるが、これは前後の文脈をみると、

○うらなりの君の、良教師で好人物な事を吹聴して、
となっており、「事」に続く場合の臨時的な結合（たとえば「母は私が子供な事を残念がった」などという）であり、時代的な差ではないものと思われる。

3—3 漱石と鷗外の違い

まず、前節リスト③の（76ページ）にある「特別」という語は、『坊っちゃん』『草枕』では「特別の」であり、『雁』では「特別な」という形で用いられている。すなわち漱石は「特別の」、鷗外は「特別な」を使うという傾向がありそうである。しかし、これだけの例では少いので、漱石の『行人』『硝子戸

の中』、鷗外の『青年』から例を集めると、表3のようになった（『山椒大夫』『寒山拾得』『夢十夜』『高瀬舟』『普請中』では「特別の」も「特別な」も用いられていなかった）。

〔表3〕

	坊	草	行	硝	雁	青
特 別 な			1		1	3
特 別 の	1	1	3	1		

これだけ集まると漱石では「特別の」が多く、鷗外では「特別な」が多いという傾向がいつそう明らかになったと言えよう（しかし、漱石が「特別の」ばかり用いたのではないということは『行人』に「特別な」が1例用いられていることからわかる）。

それに対して、同じリスト③（76ページ）にある「…位」という語は、「特別」ほど顕著ではないが、反対に漱石では「…位な」のほうが「…位の」より多く、鷗外では「…位の」のほうが多いように思われる。そこで、ここでも他の作品から用例を集めてみると次のようになる。

〔表4〕

	坊	草	行	硝	雁	山	寒	青
… 位 な	13	2	16		2			2
… 位 の	8	2	14	11	6	1	1	5

この表になると、漱石が「…位な31、…位の35」でほとんど差がなく、それに対して鷗外は「…位な4、…位の13」というように、「…位の」のほうが断然多いという傾向が出てくるので、やはり二人の間に差があると言える。しかし、この点については、漱石の作品の中でも『硝子戸の中』のように「…位な」が用いられず、「…位の」が11例用いられているなど、作品間の差も見られ、さらに調査をする必要がある。

また、「…位」にも、接尾語的用法（体言に直接つくもの。例、教頭位・それ位 etc.）と、形式名詞的用法（連体修飾語から続くもの。例、死ぬ位・美しい位・ソノ位 etc.）とがあるが、それぞれは次のようになっている。

〔表 5〕

		坊 草 行 硝(漱石計)				雁 山 寒 青(鷗外計)			
体言＋	位 な	10 4 14							
	位 の	6 2 6 5 19				1 1 1 5 8			
連体修飾語＋	位 な	3 2 12 17				2 2 4			
	位 の	2 8 6 16				5 5			

こうしてみると漱石のほうでは、平均して「…位な」「…位の」が用いられているけれども、鷗外のほうでは、形式名詞的用法の「位」は「…位な」「…位の」が同じぐらい用いられ、接尾語的用法の「位」は「…位の」に偏っているということが言える。

次に、これも同じリスト③の「…風」という語は、この範囲では、『坊っちゃん』が「…風な2, …風の1」, 『雁』で「…風な1」となっていて、漱石・鷗外ともに「…風な」の方を多く用いているように見えるが、そのほかの作品では、『行人』で「…風な1, …風の6」, 『青年』で「…風な3, …風の10」とともに全く逆の結果になるものがある。

この「…風」にも、体言から続く用法と連体修飾語から続く場合があり、それぞれ次のようになる。

[表 6]

		坊	行	硝	雁	青
体言＋	風 な	1	1			
	風 の	1	2			10
連体修飾語＋	風 な	1			1	3
	風 の		4	2		

〔表6〕から、漱石のほうはこの語もいろいろに使っているが、鷗外のほう
は、体言から続くときは「…風な」を用い、連体修飾語から続くときは「…風
の」を用いる、という傾向が見られるようである。

同じリスト③の「…程」という語も漱石と鷗外とで差が見られる。すなわち、『坊っちゃん』『草枕』とも、「…程の」が「…程な」の約1.5倍用いられ

ており、『雁』『山椒大夫』『寒山拾得』ではすべて「…程の」である。鷗外でも『青年』に1例（「…程の」は11例）、『普請中』に1例（「…程の」はない）と、「…程な」を用いた例はあるが、漱石と比すれば、その使用率はさらに低い。

なお、「程」にも、体言から続く用法と、連体修飾語から続く場合とがあるが、それぞれ次のようになっている。

〔表7〕

		坊 草 行 硝 夢	雁 山 寒 青 高 普
体言＋	程 な	2 7	1
	程 の	3 9 4 2 1	1 1 5 2
連体修飾語＋	程 な	1 2	1
	程 の	10 20 7 2	7 1 6 2

この〔表7〕からは、「…位」「…風」のようなはっきりした傾向は見られない。漱石・鷗外ともに、どの用法も見られるが、作品によってかなりばらつきが見られる。また、漱石では体言から直接続く場合のほうが、連体修飾語から続く場合よりも「…程な」の使用率がやや高い、というようなことが言える程度である。

リスト③で、ゆれについて問題があるように思われる語に、あと「…的」という語がある。リストの範囲では、漱石が「…的な」と「…的の」をほぼ同じぐらい用いているのに対して、鷗外では「…的な」ばかりであるように思われる。しかし、他の作品も見てみると、

〔表8〕

	坊 草 行 硝	雁 青
…的な	2 3 16 1	3 17
…的なる	1	
…的の	1 4 8 3	5

となっており、鷗外が「…的の」を全く使用しないわけではないことがわかる。

このように、はじめの五作品にみられた傾向が、作品の数をふやせば変って

くるものは、前にのべた「…位」「…風」「充分」とこの「…的」があげられる。そのほか、〔表1〕(77ページ)で、漱石は「～な」と「～の」にゆれるものの異なり語数が多いのに対して、鷗外は『雁』に3語あるだけ、という傾向が見られ、また〔表2〕で、漱石は「～なる」を用いているのに対して、鷗外は「～なる」を用いない、といったことも言えるが、異なり語数のほうは、鷗外でも『青年』や『高瀬舟』をみると、「いろいろな・の」「…位な・の」「…質な・の」「…的な・の」「…程な・の」など、かなりの語がゆれているようであるし、「～なる」についても、『青年』に十数例見ることができ、鷗外が「～なる」を用いることもある、ということがわかる。

したがって、これだけの作品から、すぐに漱石・鷗外用語が完全に明らかになったとは言えない。二人の全作品を調査すればもっと違うことがわかるかも知れない。とにかく、本稿で明らかにしたものは、ここでとりあげた作品の範囲でだけ言えることである。

3-4 言語的環境

前節リスト③(76ページ)にある「…色」という語は、「…色な」となる場合と、「…色の」となる場合がある。しかし、稿末の用例集を見ればわかるように、「…色な」となるのは、『草枕』の2例、『雁』の1例ともに「黄色な」である(「黄色の」はあと『坊っちゃん』に2例)。また、この「黄色」には他に「黄色い(坊1・青2)」の形の言い方もある。それに対して、他は「灰色の(寒1)」「朱色の(行1)」「茶色の(草2, 行1)」「琥珀色の(草1, 青1)」「紫色の(草1)」「鼠色の(普1)」「カーキ色の(行1)」など、すべて「…色の」である。現代語で「黄色」と同じように「～の／な／い」の形で用いられている「茶色」も上のように、「茶色の」の形のみ出現している。これらの作品の範囲では、「…色」が「な・の(および, い)」でゆれるのは、前に「黄」という語が来るという環境にある場合だけだと言える。同じくリスト③にある「…的」という話も「…的な」と「的の」でゆれているが、これの前にどんな語(漢語, 和語, 外来語, 等)が来るかということについて調べたものが〔表9〕である。

〔表 9〕

		坊 草 行 硝	雁 青
一字漢語	+的の	1	
二字以上漢語		1 3 8 3	6
一字漢語	+的な	1 1	
二字以上漢語		2 3 14 1	3 16
外来語		1	
二字以上漢語	+的なる	1	

この表でみると、外来語 1 例（ロマン的な）のほかはすべて漢語である。そして一字漢語は『草枕』、『行人』とも、「詩的」という語である。「的」という語は、「～な」「～の」の形では現代語ほど、また〔表10〕で示すような「位」「風」「程」などほどは、前に来る語が自由でないようである。

なお、〔表 9〕の「…的」も〔表10〕の「…位」「…風」「…程」も、「～な」「～の」のゆれの問題に関しては、語種によって〔表 4〕～〔表 9〕までの傾向と異なる点は特に見られないようである。

なお〔表10〕の「位」「風」「程」は、前に体言が来る 場合だけに限っている。前に連体修飾語が来るか体言が来るか、という問題も言語環境の問題であるが、これについては前項ですでに述べた。

言語的環境の点から「…さ」という語についても少し述べる。リスト③でわかるように、『雁』の 3 例、『草枕』の 1 例が「…さの」で、『坊っちゃん』の 1 例だけが「…さな」である。これは、

おれの顔位な大ききさな字が二十八字かいてある。

という文で、これは先行する「顔位な」の「な」にひかれたものかと思われる。

3—5 「～な」と「～の」の使い分け

『坊っちゃん』には、すぐ近くに同じ語が「～な」「～の」の形で用いられているものがある。まず第 1 は、「色々」という語である。『坊っちゃん』にはリ

〔表10〕

		坊 草 行 硝 夢	雁 山 寒 青 高 普
二字以上漢語	+位な	4	
和 語		3 1 1	1
混 種 語		1 1 1	
固 有 名 詞		2	
文 相 当 句		1	1
二字以上漢字	+位の	4 4 3	1 1 3
和 語		1 3 1	1
混 種 語		1	
和 語	+風な	1	
外 来 語		1	
二字以上漢語	+風の	1	8
和 語		1 1	
外 来 語			2
二字以上漢語	+程な	2	
和 語		2 3	1
混 種 語		2	
二字以上漢語	+程の	1 4	2
和 語		1 5 4 2 1	1 1 3 1
混 種 語		1	1

スト③でわかるとおり、「色々の」というのは1例しか見られないが、それは、赤シャツという人が、

「(前略)そこには色々な事情があつてね。君も腹の立つ事もあるだろうが、ここが我慢だと思って辛防してくれ玉え。決して君の為にならない様な事はしないから」

と言ったのを受けて、主人公の坊っちゃんが、

「色々の事情た、どんな事情です」

と言う部分である。第2は、「寛大」という語で、これも赤シャツが

「〔前略〕なるべく寛大な御取計を願いたいと思います」
と言った、その少し後に、野だいこが赤シャツを支持して、

「〔前略〕どうか成るべく寛大の御処分を仰ぎたいと思ひます」
と演説する部分である。もう1つは「至当」という語で、これは山嵐が会議で、

「〔前略〕軽侮されべき至当な理由があつて、軽侮を受けたのなら、〔中略〕
公けに謝罪の意を表せしむるのを至当の所置と心得ます」
と、やはり演説する所である。これらは、作者の漱石が意識的に「～な」と「～の」とを使い分けたものと考えられる。前の2例は、他の人が「～な」と言ったのにわざわざ「～の」に変えて用いているが、そのうち「色々の事情で」というのは坊っちゃんの、赤シャツへの聞き返しの言葉の中に、暗に詰問や軽侮の気持ちを込めているように思われる（「事情た」という表現にもそれが感じられる）⁹。また、次の「寛大の御処分」というのは、原典でもいうように、漢語をのべつ陳列した、理屈ばかりで訳のわからない演説の中にある語だということであるから、それなりに「寛大の」を用いて漢語的なかたさを出したとも言える。山嵐の「至当な」と「至当の」については、同一演説中に現れ、前の「色々」「寛大」とは少し事情が異なるが、先行する「至当な」が、「至当な理由があつて軽侮を受けられたのなら」と、仮定的・客観的なことがらについて用いられたのに対して、後の「至当の」が、「至当の所置と心得ます」と、断定的・主観的なことを言うのに用いられたもので、よりかたい表現であると言える。このように「寛大」「至当」といった漢語は、「一の」の形で用いると、「一な」の形よりも漢語的なかたさが強くなるようである。そして、〔表1〕（77ページ）で、『草枕』が『坊っちゃん』より「～の」を多く用いている、という事実と合わせ考えると、夏目漱石は、場面や文の調子などに応じて「～な」と「～の」をいろいろに使い分けている、ということがわかる。

4. おわりに

本稿では、「漱石・鷗外の用語研究」という研究の一環として、「～な」と「～の」のゆれについて、当時の実態を——ほんの一部であるが——明らかに

したものである。

本稿では、2 および 3 で述べた事実が、それぞれ結論になっているが、全体を通して気の付いたことを補足する。

まず第一は、漱石のほうが鷗外よりも「～な」と「～の」でゆれる語が多い、ということが言える。前節3項で少しふれたように『青年』『高瀬舟』などでは、鷗外でもゆれている語がかなり見られるようであるが、漱石のほうはこの作品でもゆれる語が多く、傾向としてはやはり漱石のほうが鷗外よりもゆれる傾向が強い。また、前節5項で述べたように、漱石は、意図的に使い分けられているあとが見られる（使い分けることの良否については本稿筆者の力の及ばぬ問題であるのでここではふれない）。

次に全体を通して気の付いたことは、同じ作者でも作品によって差がある、ということである。今回の調査では、五作品の全数調査を行って、問題になる語を、あと六作品から拾い出す方式をとったが、その範囲だけでも作品による違い、というものが感じられ、さらに多くの作品で調査をすれば、まだいろいろなことがわかるものと期待される。また、漱石では、初期の『坊っちゃん』『草枕』と、晩年の『行人』『硝子戸の中』などでも差があるように思われるが、この問題については機会を改めて（「～な」と「～の」のゆれについてだけでなく）調査をしたいと思っている。

付記・「漱石・鷗外用語研究」は、言語計量研究部の等一研究室が、同第三研究室の助力によって行なっているものである。

〔付・用例集〕

○主資料として用いた五作品の底本は、次のとおりである。

『坊っちゃん』…漱石全集巻2（岩波書店）（昭和41年1月刊）…明治39年4月発表

『草枕』…漱石全集巻2（岩波書店）（昭和41年1月刊）…明治39年9月発表

『雁』…鷗外全集巻5（岩波書店）（昭和26年6月刊）…大正4年5月発表

『山椒大夫』…鷗外全集巻6（岩波書店）（昭和26年11月刊）…大正4年1月発表

『寒山拾得』…鷗外全集巻6（岩波書店）（昭和26年11月刊）…大正5年1月
発表

○補助資料として用いたものの底本は次のとおりである。

『硝子戸の中』…漱石全集巻8（岩波書店）（昭和47年7月刊）・大正4年発
表

『行人』…岩波文庫本（岩波書店）（昭和45年11月刊）・大正2年発表

『夢十夜』…現代日本文学全集11巻（筑摩書房）「『夏目漱石集』（昭和29年
12月刊）・明治41年発表

『青年』…鷗外全集巻5（岩波書店）（昭和26年11月刊）・明治44年発表

『高瀬舟』…鷗外全集巻16（岩波書店）（昭和48年2月刊）・大正5年発表

『普譜中』…新潮文庫（新潮社）（昭和43年5月刊）・明治43年発表

用例集 I（主資料）

① 「な」「なる」のみの付くもの

- | | | | |
|------------|-----------|------------------|-----------|
| ○明らかな色を | （草522—11） | いやな声を | （坊350—13） |
| ○鮮やかな紅の滴々が | （草541—15） | いやな奴で | （草509—3） |
| 鮮やかなる織物は | （草462—5） | いやな噂を | （雁389—4） |
| ○有体なる己れを | （草398—1） | いやなお上さんて | （雁313—2） |
| ○憐れな奴等だ | （坊267—14） | いやな女だと | （雁400—3） |
| 憐れな歌ですね | （草437—4） | いやな女だと | （雁400—2） |
| 憐れな感じが | （草499—8） | いやな菜が | （雁401—6） |
| （cf）憐れの念が | （草501—8） | いやな商売を | （雁318—11） |
| ○安価なる気焰家は | （草449—8） | いやな人だとは | （雁318—12） |
| ○安全なものである | （山336—11） | いやなもの、 | （雁313—12） |
| ○異な瓦斯を | （草441—10） | ○異様な赤で | （草499—14） |
| 異な仕掛の | （草425—3） | 異様な激動を | （雁417—2） |
| ○いい加減な邪推を | （坊326—8） | ○陰気な臭桶寺の | （雁272—3） |
| いい加減な所を | （草486—13） | 陰気なようだが | （雁290—1） |
| いい加減な事を | （雁290—5） | 陰気な小屋も | （山355—9） |
| ○意外な事に | （雁331—1） | ○薄っぺなのめりの下駄が | （坊335—1） |
| 意外な事が | （雁339—9） | 薄っぺな赤い石を | （草440—1） |
| 意外な事を | （雁350—7） | ○うららかな春日が | （草420—5） |
| 意外な辺りから | （雁337—10） | うららかな春の日を | （草496—12） |
| ○粋な女が | （雁352—12） | ○上の空なる波を | （草455—9） |
| 粋な所が | （雁289—6） | ○unbefangen な態度を | （雁418—4） |
| ○偉大な豪傑では | （草448—15） | ○鋭敏な感覚が | （雁364—3） |
| 偉大なる活力の | （草455—11） | 鋭敏な人が | （雁364—6） |
| ○いやな奴だ | （坊347—6） | ○鋭利な観察を | （雁316—6） |

- 艶なる月下の (草499— 8)
- 横風な、失敬な奴だと (坊261— 7)
- おお様な所が (雁296— 3)
- 臆病な男でも (坊261—14)
- おっくうなようだが (雁290— 2)
- 愚かな事を (坊273— 1)
- 愚かな者ゆえ (山349— 8)
- 雅な事と (草396— 1)
- 可哀想なものだと (坊259—11)
- 凱切な御考えて (坊305— 3)
- 苛酷な事をも (山358— 5)
- かすかな痕を (草401—10)
- かすかなる笑の影が (草519—10)
- かすかなる耀きを (草453—14)
- かすかな響きを (雁407—11)
- かすかな、甘い感傷的情緒が (雁380—10)
- かすかな明りで (山352— 1)
- かすかな燈火の下で (山335—11)
- かすかな燈火の明りに (山353—11)
- 堅気な商売に (雁318—12)
- 堅気な人に (雁294— 9)
- 雲りがちな春の空を (草401—13)
- 怯れ勝ちなお玉の (雁311— 2)
- 有り勝ちな無遠慮を以て (雁404— 1)
- 恰好なものだと (草402— 8)
- 恰好な対称を (草457—13)
- 勝手な計画を (坊247— 5)
- 勝手な熱を (坊309— 5)
- 勝手な軍歌を (坊253— 3)
- 勝手な規則を (坊270— 7)
- 勝手な真似を (草396— 3)
- 勝手な真似の (草396— 4)
- 下等な所に (坊369—13)
- (cf) 下等の車室の (坊323— 2)
- 寛な方に (坊305—12)
- 頑固なものだ (坊375— 3)
- 頑丈な体と (山367— 1)
- 感心なやり方だ (坊249— 6)
- 閑静なものだ (坊295—15)
- 簡単なものだ (坊355—15)
- 黄な法衣を (草508— 8)
- 黄な汁を (草481— 8)
- 危険な事も (寒646—10)
- きざな態度が (雁357— 9)
- 奇怪なもので (草506— 8)
- 気の毒な事に (坊382—14)
- 気の毒なものだ (坊276— 9)
- 気の毒なものだ (坊277— 2)
- 気の毒な事を (草391—15)
- 御気の毒な事を (草429—10)
- 気の毒な事には (雁296— 9)
- 気の毒な程迷って (雁398—12)
- 気の毒な申し分だが (雁281— 2)
- 急な用事で (雁364—11)
- 窮屈な世界だこと (草436— 4)
- 窮屈な処であったからで (雁273— 1)
- 急激な身の上の変化の (雁393— 1)
- 御器用な方が (雁302— 4)
- 仰山な音が (坊255—11)
- 強烈な苦痛を (雁380—11)
- 強烈な直覚を (雁348—10)
- 嫌いなものなら (坊250— 1)
- 嫌いなものと (坊308—13)
- 嫌いな事は (坊246— 5)
- 嫌いな人は (坊246—12)
- 嫌いな人ですね (草494—10)
- 嫌いなほうじゃ (草492—13)
- 気楽な宿直が (坊253—13)
- 気楽な響きが (草404— 1)
- 気楽なものだ (草520— 8)
- 気楽な問題を (雁332—10)
- きれいな奴だ (坊349—11)
- きれいな所へ (坊287—14)
- きれいな刃を (坊241— 8)
- きれいな画に (草495—14)
- きれいなお嬢さんが (草442—10)
- きれいな影が (草461— 1)
- きれいなものが (草461— 2)
- きれいなものが (草528— 9)
- きれいなうえに (草519— 5)
- きれいな家に (雁306— 1)
- きれいなお母さんが (雁346— 8)
- 謹直な人が (坊379—15)

○屈駕な場所だ	(草425—15)	○小ぎれいな身なりを	(雁292— 3)
○怪しげな蚊帳の	(草412— 1)	○小ぎれいな所で	(雁335— 1)
敵めしげな所が	(雁308— 2)	○滑稽な樹は	(草511— 3)
頼もしげな駒下駄の音だけで	(雁318—10)	○古風な紙燭を	(草410—12)
○軽快な感じは	(草498—15)	古風な縄のれんが	(草543— 7)
○軽躁な暴慢な悪風を	(坊306—13)	○こまやかなる雨に	(草469— 1)
○軽跳な風を	(坊340—12)	こまやかなる事,	(草475—12)
○軽薄な生徒を	(坊306—12)	○混淆な夢を	(草413— 6)
軽薄なる二豎子の為に	(坊366— 3)	○盛んな講釈を	(雁415—10)
軽薄な態度は	(草497— 6)	○爽やかな朝風に	(雁320— 2)
○けちな奴等だ	(坊275—13)	○sentimental な、明朝の才人の	(雁280— 1)
けちな奴等だ	(坊280—12)	○残念な事を	(坊285—11)
けちな家が	(雁275—11)	○仕合せな事には	(雁294— 9)
けちなくせに	(雁292— 2)	仕合せな事には	(雁389— 4)
けちな末造の処置を	(雁296— 4)	○四角な世界から	(草416— 5)
○結構な男を	(坊321— 1)	四角な石が	(草478— 7)
結構な人で	(坊251— 3)	○静かな海を	(坊289—13)
結構な飲料で	(草475—12)	静かな春の夜に	(草467— 5)
結構な事にも	(草392—12)	静かな春の昼過ぎに	(草467—10)
結構な事よ	(草451— 8)	静かな春に	(草499—13)
結構な法は	(草451— 9)	静かなものだ	(草453— 6)
○潔白なものだ	(坊276— 1)	静かな畳の上を	(草519— 9)
潔白なおれも	(坊354— 5)	静かな庭に	(草417— 5)
○下品な仕草だ	(坊284—14)	静かなる風呂場を	(草472— 4)
○下劣な根情が	(坊276— 3)	静かなるものは	(草498—12)
○健康な美人の	(雁403— 8)	静かな小さい一間を	(雁297— 1)
○厳重な罰などを	(坊305—12)	静かな同じ事を	(山355—13)
厳重な制裁を	(坊304— 2)	○失敬な奴だと	(坊261— 7)
○高尚な精神的娛樂を	(坊309— 3)	失敬な奴だ	(坊254— 4)
高尚な正直な武士的な元気を	(坊306—13)	失敬な奴だ	(坊255— 5)
○好人物な事を	(坊345— 3)	失敬な事を	(坊282— 3)
○豪胆なものだ	(坊285— 5)	○しなやかな体軀を	(草507— 1)
○幸福な人である	(草497— 1)	○自分勝手な話を	(坊300— 5)
○公平なる宇宙の意で	(草453— 8)	○地味な歡樂を	(雁300—13)
○高慢ちきな釣道楽で	(坊283— 2)	○洒落な人が	(草508—15)
○巧妙な弁舌を	(坊338— 3)	○重大な責任を	(坊330— 7)
巧妙なものだが	(坊353— 1)	重大な責任と	(坊330— 9)
○荒涼な趣きを	(雁407— 3)	○殊勝なお心掛けと	(山334— 1)
○古雅な言葉で	(草408—12)	○醇なる詩境に	(草392—10)
古雅な話を	(草408—12)	○純粹な人を	(坊292— 8)
		純粹なる専門画家と	(草526— 7)

純粋なるものも	(草393—10)	○疎遠な人だと	(寒467—12)
○純朴な所で	(草392— 8)	○俗な男だと	(草480—14)
○順良なる生徒を	(坊366— 1)	○粗暴な様だが	(坊369— 3)
○峻烈な性分を	(雁304—10)	○粗末なもので	(山341— 8)
○心配性な男と	(坊296— 6)	○solennel な心持ちに	(雁293— 2)
○正直な純粋な人を	(坊292— 8)	○大事な手紙だから	(坊319— 5)
正直な武士的な元気を	(坊306—13)	大事な顔だ	(坊367— 1)
正直な女でも	(雁325— 9)	大事な栗だ	(坊242— 2)
正直な子だもんです	(雁285—10)	大事なものが	(草388—12)
○清浄な水が	(寒464—13)	大事なものならば	(草497—10)
清浄な水でも	(寒464—13)	大事なお玉を	(雁294—13)
○上手な床屋へ	(草450— 6)	大事な一人娘で	(雁293— 8)
○少壮な身を	(雁391—11)	大事なお守だが	(山363— 5)
○上品な積りだ	(坊276—10)	大事なしるものじゃ	(山341—10)
上品な目立ぬ好みの支度を	(雁299— 7)	○大層な材木が	(山331— 6)
○親切な女見た様な男だ	(坊338— 5)	○大変な事に	(坊308— 5)
親切なものだから	(坊294— 2)	大変な打撃だ	(坊308—14)
親切な同宿だと	(寒469—13)	大変な人出だ	(坊361— 6)
○迅速な御手際で	(坊362— 4)	大変な山の中だ	(坊331— 4)
○親密な人が	(寒467—12)	大変な活眼だ	(坊313— 5)
○好きなものは	(坊264—10)	大変な不利益だ	(坊354—12)
好きなものは	(坊246—12)	大変な目に	(草447—14)
好きな鮓のさし身か	(坊319— 9)	○平らな所へ	(草526—14)
好きな方だから	(坊355—10)	○巧みな事	(草521— 9)
好きな田舎饅頭を	(雁344— 1)	○確かな人が	(坊311— 3)
好きな文章が	(雁279— 8)	確かな船頭にさえ	(山336—11)
好きな娘さん達は	(雁303— 1)	確かな手へ	(山339—12)
好きな人で	(寒470— 5)	確かな手から	(山339—12)
○素直な性なので	(雁387— 3)	○達者なもので	(坊273— 1)
○清潔な膳の上に	(雁401— 7)	達者なからだで	(坊311—11)
清潔な身は	(雁404—10)	達者なもんだ	(草450— 7)
○盛大なる送別会を	(坊346— 9)	達者な雁は	(雁413— 4)
○贅沢な話だ	(坊282—11)	○単純な人間だから	(坊307— 5)
○精緻な彩色ものが	(草412—12)	単純なものには	(坊316—10)
○拙なるものと	(草479—11)	単純なお梅の頭には	(雁396— 6)
○せっかちな性分だから	(坊374—14)	単純なりウマチス性の頭痛で	(寒462— 6)
せっかちな性分だから	(坊318— 2)		
○御苦労千万な服装を	(坊257—13)	○淡泊な処置が	(坊249— 7)
失敬千万な事を	(坊299— 1)	淡泊な様に	(坊292—15)
○善良な男子なのだから	(坊324— 7)	○緻密な思慮は	(雁301— 3)
善良な性質を	(雁300— 7)	○痛切な感じは	(雁314— 3)
○相応な暮しを	(雁300— 3)	○つつましかな微笑を	(雁300—12)

○罪な御布令を	(坊308—14)	○はなやかなる姿を	(草462—8)
罪な雑誌だ	(坊287—5)	はなやかな笑顔に	(雁279—1)
罪な事を	(雁397—4)	○晴やかな顔を	(雁329—5)
○丁寧な言葉を	(坊379—13)	○煩瑣な規則の	(雁434—3)
○適当な機会が	(雁300—8)	○卑怯な待駒を	(坊244—3)
○手近な際立った性質から	(雁270—6)	卑怯な人間で	(坊261—14)
○手持不沙汰のように	(雁315—10)	卑怯な事は	(坊275—15)
○同然な奴とでも	(坊348—5)	卑怯な冗談だ	(坊268—1)
○重禁固同様な憂目に	(坊271—9)	○非常な勢で	(坊278—8)
○とんきょうな声で	(雁375—4)	非常な辣腕だ	(草444—15)
○頓珍漢な処分は	(坊305—9)	非常な速度を	(雁397—11)
○名代な橋だがね	(草439—9)	非常な満足を	(雁299—5)
○なだらかな谷へ	(草523—8)	○美妙な調和を	(草531—9)
○生意気な某とは	(坊366—12)	○卑劣な振舞を	(坊295—10)
生意気な事を	(坊364—9)	卑劣な根性は	(坊354—4)
生意気な悪いいたづらを	(坊276—6)	卑劣な男なものか	(雁404—6)
生意気な奴は	(坊268—6)	○fatalistique 名明朝の才人の	(雁280—1)
生意気なる某がと	(坊365—14)	○不可能な事は	(雁282—4)
生意気なる某などと	(坊367—1)	○不機嫌な顔を	(雁312—2)
○滑らかな舌で	(雁343—2)	不機嫌な顔を	(雁387—4)
○難儀な思いを	(坊378—15)	○不規則な形形で	(草496—9)
○脈やかな方へ	(坊310—8)	不規則な時間に	(雁361—3)
脈やかな切通しを	(雁415—1)	○不潔な水でも	(塞464—13)
脈やかなさえずりが	(雁365—6)	不潔な水で	(寒465—1)
脈やかなために	(雁276—6)	○不見識な男だ	(坊259—6)
脈やかな仲町を	(雁272—3)	○不作法な頭ア	(草450—4)
○柔和な手段の	(雁304—11)	○不仕合せな女に	(草423—2)
○のどかな春の日を	(草390—2)	不仕合せな目に	(雁297—1)
のどかな春の感じを	(草449—7)	不仕合せな雁も	(雁409—2)
のどかな春の感じを	(草449—7)	○不思議なもので	(坊250—5)
のどかな馬子唄が	(草404—1)	不思議な事に	(坊278—2)
○呑気な隠居のやる様な事は	(坊264—10)	不思議なものだ	(坊361—15)
呑気な声を	(坊334—4)	不思議なものだ	(坊294—4)
呑気な時節で	(坊250—13)	不思議なもので	(坊244—10)
呑気な声を	(坊361—14)	不思議な事に	(坊366—7)
呑気な春と	(草394—6)	不思議なもんですね	(坊315—1)
呑気な扁舟を	(草392—1)	不思議な歩行を	(草461—5)
呑気なものだ	(草449—8)	不思議な事には	(草406—7)
呑気な弥次と	(草479—5)	不思議な事に	(草413—13)
○馬鹿な銭を	(雁290—8)	不思議な心持だ	(草397—5)
○破格な金使いを	(雁271—8)	不思議な装をして	(草461—4)
○はでな所が	(草479—5)		

不思議な遠慮が	(雁307—10)	○負け嫌な大声を	(坊299—13)
不思議な程	(雁329—2)	○真面目な顔を	(坊300—2)
不思議な事で	(寒470—4)	真面目な狂言には	(雁347—1)
○不自然な所の	(雁364—8)	○真っ赤な雑誌を	(坊287—4)
○不実な男の	(雁294—8)	○真っ黒な茶釜が	(坊399—1)
○不浄な地を	(坊382—7)	○真っ青な顔を	(寒474—7)
○不確かなマドンナさんで	(坊314—10)	○真っ白な姿が	(草471—2)
○不都合なもんか	(坊272—8)	○真っ直なもの	(坊326—11)
不都合な事が	(坊333—9)	真っ直な気性だと	(坊277—7)
○物騒な所だ	(坊294—5)	真っ直な短い枝が	(草528—2)
物騒な男から	(草530—1)	真っ直な短い枝に	(草528—2)
物騒な最中で	(雁293—13)	○まばらな生垣の	(山372—4)
○不つつかな世話の焼きやうで	(山331—2)	○妙な人も	(坊263—14)
○不人情な事を	(坊324—6)	妙な奴だ	(坊307—12)
不人情な事は	(坊373—5)	妙なものだ	(坊328—2)
不人情な事が	(坊334—8)	妙な手付をして	(坊264—11)
不人情な人間ばかりだ	(坊282—8)	妙な顔を	(坊251—15)
不人情な惚れ方を	(草488—1)	妙な顔を	(坊263—4)
○不必要なる犠牲を	(草525—6)	妙な事ばかり	(坊285—15)
○不愉快な所を	(草466—2)	妙な筒ぼうを	(坊253—5)
○不埒な奴だと	(坊326—5)	妙なおやじが	(坊244—1)
○分明なものでは	(草456—11)	妙な病気が	(坊257—15)
○平穏な叙事が	(雁370—6)	妙な顔を	(坊309—9)
平穏な生活を	(雁356—4)	妙な所へ	(坊336—8)
○平気な顔を	(坊311—7)	妙な奴が	(坊360—9)
平気な顔では	(草466—7)	妙な顔が	(坊367—12)
平気な事で	(草538—10)	妙な口を	(坊335—11)
平気なもんで	(草447—14)	妙な病気だな	(坊343—10)
平気な訳だ	(草403—7)	妙な謡を	(坊361—14)
○下手なものだ	(坊344—9)	妙な家と	(草472—12)
下手な写真師と	(草440—7)	妙な影が	(草510—9)
○別な事を	(草402—13)	妙な気に	(草406—12)
○べらぼうな話だなあ	(雁347—13)	妙な気持ちか	(草410—5)
○変な顔を	(坊255—7)	妙な事だね	(草403—2)
変な声を	(坊312—5)	妙な理屈だ事	(草486—4)
変な顔を	(坊253—6)	妙な事を	(草538—7)
変な話を	(雁331—1)	妙な臭いが	(草441—10)
変な素振が	(雁350—7)	妙な節の唄を	(草523—12)
変な様子を	(雁345—5)	妙な柳が	(草472—12)
○法外な注文を	(坊256—8)	妙な対照のようだが	(雁405—13)
○暴慢な悪風を	(坊306—14)	妙な事に	(雁369—7)
		○無意味な一瞥を	(雁416—2)

○無邪気な画ですね	(草515—13)	○容易な事では	(坊362—11)
無邪気な画だ	(草515—11)	容易な事では	(草500—15)
(cf) 無邪気の極である	(草462—12)	○陽気な感じが	(草499— 3)
無邪気な安寿が	(山348— 6)	○余計な発議を	(坊284— 8)
○無勢力なものだ	(坊371— 1)	余計な手数だ	(坊256— 1)
○無節なる御転婆を	(坊346— 5)	余計な減らず口を	(坊268— 3)
○無鉄砲なものを	(坊256— 6)	余計なお世話だ	(坊269— 8)
○無頓着なる所作ならば	(草462— 3)	余計な口を	(坊301—12)
無頓着な人と	(寒467—10)	余計な事を	(坊367— 6)
無頓着な人で	(寒467— 5)	余計な世話を	(坊334— 3)
○無分別な学生の	(雁282— 6)	余計な事を	(草517—15)
○無法な事を	(坊296—13)	余計な探りを	(草416—14)
○無闇な嘘を	(坊366—10)	余計な苦勞を	(雁329— 2)
○無理な事を	(雁318—12)	余計な心配を	(雁402— 6)
無理な要求で	(雁362— 9)	余計な掃除の	(雁383— 9)
○明瞭なる外界の	(草456— 2)	余計な手数は	(雁354— 4)
○迷惑な話だが	(雁334—13)	○余っ程な金目だろう	(草442— 9)
○面倒な会議なんぞを	(坊303— 2)	○磊落な様に	(坊292—15)
面倒な事を	(坊256— 1)	○楽なものを	(坊350—10)
面倒な事情なら	(坊291— 3)	楽なものだ	(草465—12)
面倒な事は	(坊276—14)	楽な身の上に	(雁308— 7)
面倒な事を	(雁284— 4)	○乱雑な有様を	(坊363—11)
○猛烈なる運動を	(草444— 9)	○乱暴な声なので	(坊351— 8)
○やな心持が	(坊284—12)	乱暴な事を	(草539— 1)
やな心持が	(坊265— 5)	○利口な顔は	(坊361— 7)
やな女が	(坊253— 6)	利口な人だから	(雁344—11)
やな奴だ	(坊268— 3)	○立派な人間だ	(坊277— 8)
○厄介な所へ	(坊277— 1)	立派な座敷へ	(坊259—15)
厄介な奴等だ	(坊268—14)	立派なものに	(坊246—10)
厄介な所だ	(坊316— 8)	立派な玄関を	(坊328— 5)
○野蛮な所だ	(坊252—13)	立派なものだ	(坊269— 2)
○野卑な…悪風を	(坊306—13)	立派な旦那様が	(坊321— 2)
○柔らかな光線を	(草469— 6)	立派な玄関の	(坊246—15)
○幽遅な所です	(草476—11)	立派な女形が	(草523—15)
○悠長な事を	(坊281— 4)	立派な画家で	(草521—12)
悠長なもので	(坊362— 2)	立派な白壁の家が	(草535—13)
悠長な振る舞を	(草395—10)	立派な羊羹が	(草432—10)
○有名な書家の	(坊344—10)	お立派な方で	(雁360— 9)
○愉快な気持ちに	(草464—11)	立派な構で	(雁307—13)
愉快な事も	(草538— 4)	立派な紅顔の美少年で	(雁357— 9)
愉快な刺激と	(雁393— 3)	立派な実業家だと	(雁296— 2)
○好い気な物ね	(雁346—10)	立派なものがある	(雁290— 9)

- 冷静な心と (雁393— 2)
- 伶俐な頭で (雁350—10)
- 碌なもの (坊314—11)
- 碌なものには (坊243— 6)
- 碌な所では (坊251— 1)
- 碌なものには (坊243— 7)
- 露骨な肉の美を (草469—10)
- ② 「の」のみが付くもの
- 当り前のことよ (山350—10)
- 余りのことに (雁356— 2)
- 有り合わせの物で (雁311— 6)
- いい工合のようですから (雁323—12)
- 人間以上の永久と (草500—14)
- それ以上の数は (雁416—10)
- 一人前の独立した人間だ (坊295— 7)
- 一人前の高利貸に (雁282— 2)
- 一種のculture を (雁316—11)
- 一種の安心を (雁356— 1)
- 一定の景物で (草456—13)
- 色黒のひげ面と (草531—11)
- 内気の優しい方が (草409—11)
- うやむやの内に (草519— 9)
- 大勢の女の目が (雁371— 3)
- 大勢の娘が (雁326— 3)
- 大勢の奴隷が (山346— 4)
- 大勢の人を (山333— 9)
- 大勢の人が (山352— 5)
- 大勢の人の (山356— 5)
- 大勢の人が (山365—10)
- 大勢の僧が (寒473— 4)
- お定まりの小倉の筒袖を (雁292— 4)
- 温良篤厚の土は (坊346— 2)
- 格別の効果を (雁339— 6)
- 過分の恩恵だと (雁397— 2)
- 過分のいたわり様じゃ (山345— 7)
- 怪訝の目を (雁396—10)
- けちん坊の欲張り屋に (坊336—14)
- 日本固有の空気に (草522—13)
- 御用多の折 (坊347— 9)
- 言語道断の沙汰で (草433— 1)
- 最良の策だと (雁415— 2)
- 様々の憐れはあるが (草465— 5)
- 神経質の水の様に (坊325— 5)
- 十分の美を (草471—12)
- 十分の食料を (雁332—11)
- (cf)→用例集Ⅱ (補助資料)
- 種々の感情が (雁312— 7)
- 種々の感情が (雁404— 4)
- 種々の高さに (雁407— 3)
- 種々の難儀に (雁401— 4)
- 潤沢の気合から (草506—10)
- 上等のざら付かない製品は (雁339— 2)
- (cf)上等の切符で (坊323— 4)
- 御丈夫の様ですな (坊321— 6)
- 尻上りの早口に (雁322— 3)
- 尋常の手段で (坊354— 8)
- 尋常の様では (坊530—12)
- 尋常の道具立を (坊524— 4)
- 御心配の様子で (草409— 8)
- 随分の御年じや (草487— 8)
- 捨て身の決心で (雁299— 6)
- リウマチス性の頭痛では (寒462— 7)
- 絶対の平等観を (草497— 8)
- 相当の処分を (坊366— 5)
- 赤シャツ相当の所だらう (坊302— 3)
- 壮烈の最後を (草525—14)
- 壮烈の最後を (草525—13)
- 大分の道を (山368— 5)
- 是丈の事を (坊291— 4)
- 食わせる丈の価値は (坊277— 6)
- 夫丈の事で (坊295— 6)
- 出る丈の声を (坊363—14)
- 出る丈の句を (草418— 8)
- 此丈の姿勢で (草531— 3)
- 嬉しさ丈の自分に (草417—15)
- 写った丈の寸法では (草506— 4)
- 勝つ丈の愉快が (草524—13)
- わかる丈の余裕のある (草392—14)
- 遣る丈の事を (雁271— 1)
- これ丈の事を (雁343—10)
- これ丈の事を (雁382— 3)
- それ丈の事を (雁387—10)
- 自分丈の精力を (雁296— 7)

持っている <u>丈</u> の精力を	(雁282— 3)	呼ぶ <u>筈</u> の所へ	(雁303—11)
それ <u>丈</u> の刹那の	(雁277— 5)	<u>刈</u> る <u>筈</u> の柴を	(山347— 8)
どれ <u>丈</u> の要約が	(雁350—10)	○ <u>早起</u> の老人は	(雁319— 9)
置く <u>丈</u> の物を	(雁301— 2)	○ <u>半可</u> の英語で	(坊351— 5)
自分 <u>丈</u> の仕立物を	(雁296— 7)	○ <u>悲惨</u> の最後を	(雁270—10)
これだけのことを	(山371— 9)	○ <u>必須</u> の条件である	(草470— 6)
踏み込むだけの勇気は	(山367—12)	○ <u>飄逸</u> の趣は	(草412—13)
○ <u>多少</u> の時代が	(草479— 3)	○ <u>無愛想</u> のおれに	(坊283— 1)
<u>多少</u> の生命を	(草457— 6)	○ <u>不安</u> の感が	(草501— 5)
<u>多少</u> の面倒が	(雁303— 6)	○ <u>不可思議</u> の千万無量——	(草419— 7)
○ <u>結い立て</u> の銀杏返しの髪が	(雁277— 3)	<u>不可思議</u> の千万無量——	(草419— 7)
○ <u>他人行儀</u> の挨拶を	(雁434— 7)	○ <u>不調和</u> の階級を	(雁337— 9)
○ <u>多人数</u> の下役が	(寒462— 1)	○ <u>不毛</u> の境を	(草444—10)
○ <u>多量</u> の形容詞中から	(草421— 5)	○ <u>全く</u> のお婿さんだと	(雁285—10)
○ <u>唐棧</u> づくめの末造に	(雁292— 6)	○ <u>未完</u> の物なら	(雁379— 6)
○ <u>常</u> の心の	(草455—13)	○ <u>水入らず</u> の晩が	(雁305—11)
<u>常</u> の姿には	(草455—11)	○ <u>南向き</u> の庭に	(草536— 6)
<u>常</u> の人よりも	(草391—10)	<u>南向き</u> の玄関から	(雁297— 1)
<u>常</u> の人の	(草470—13)	<u>北向き</u> の家で	(雁320— 4)
<u>常</u> の事なので	(雁289— 2)	○ <u>無垢</u> の処女の	(雁312— 8)
○ <u>中学生程度</u> の観想	(草497—12)	○ <u>無限</u> の域に	(草454—12)
<u>同程度</u> の速力で	(草543—12)	<u>無限</u> の青嵐を	(草454— 2)
○ <u>手頃</u> の石を	(草498— 8)	<u>無限</u> の残惜しさが	(雁417— 8)
○ <u>当然</u> の義務を	(坊270— 6)	○ <u>無言</u> の儘で	(草356—12)
○ <u>御覧の通り</u> の始末で	(坊243— 8)	<u>無言</u> の儘、	(草546— 7)
<u>御覧の通り</u> の山里で	(草401— 3)	○ <u>無実</u> の罪と	(雁348— 6)
○ <u>注文通り</u> の手紙を	(坊356— 9)	○ <u>無数</u> の琳琅を	(草416— 7)
<u>注文通り</u> の事件は	(坊356— 6)	○ <u>無用</u> の臆測を	(雁419—11)
○ <u>1円</u> とかの金である	(雁282— 1)	○ <u>無論</u> の事	(草391— 9)
○ <u>特異</u> の点が	(草481— 5)	○ <u>盲目</u> の尊敬が	(寒468— 2)
○ <u>特殊</u> の能力には	(草421—12)	<u>盲目</u> の尊敬では	(寒468— 3)
○ <u>年上</u> の女が	(雁372— 2)	<u>盲目</u> の尊敬とでも	(寒463— 2)
○ <u>突然</u> の感は	(草414— 2)	○ <u>持前</u> の豪傑気取で	(雁352—10)
○ <u>芸なし</u> の自分では	(雁357— 3)	○ <u>以ての外</u> の事と	(坊307— 8)
○ <u>人間並</u> の事を	(坊290— 9)	○ <u>尤も</u> の様でもある	(坊293—12)
<u>世間並</u> の女に	(雁358— 9)	○ <u>山出し</u> の女でも	(雁328— 9)
<u>世間並</u> の事、	(雁381— 7)	○ <u>幽冥</u> の府に	(草462— 8)
<u>世間並</u> の保護の下に	(雁358— 9)	○ <u>ようよう</u> の事で	(山366—12)
○ <u>何等か</u> の知識を	(雁330—10)	○ <u>よそ行</u> の芸を	(草523—15)
○ <u>念入り</u> の修業だから	(草418— 2)	<u>よそ行</u> の感情を	(雁301—12)
○ <u>頭にあらがう筈</u> の石垣が	(雁343— 1)	<u>よそ行</u> の時に	(雁400—13)
<u>出来る筈</u> のお玉が	(雁398— 1)	○ <u>弱虫</u> の癖に	(坊242— 4)

- お家流の手を (雁360— 1)
- ③ 「な」「なる」「の」が付くもの
- 生憎なお天気で (草400— 5)
- 生憎な所で (山329— 1)
- 生憎の降りで (草406—14)
- 黄色な珠を (草391—14)
- 黄色な珠は (草391—15)
- 黄色な外国種のカナリヤ共で (雁365—10)
- 生壁色の地へ (草475— 1)
- 紫色の蒸羊羹の (草482— 2)
- 千草色の股引の (草544—15)
- 琥珀色の玉液を (草473—15)
- 薄墨色の世界を (草397—15)
- 小豆色の四角な石が (草478— 7)
- 焦茶色の畳から (草400— 9)
- 灰色の瓦を (雁280—12)
- 羽色の鳥が (雁371—12)
- bitume 色の茎の (雁407— 4)
- 鼠色の間に (雁277—13)
- 紫色の岩の (山346—12)
- 灰色の中に (寒473— 3)
- 色々な事を (坊260— 8)
- 色々な事を (坊316— 6)
- 色々な事情が (坊290—10)
- 色々な統計を (坊375— 4)
- 色々な話を (坊312— 6)
- 色々な者を (坊265—10)
- 色々な起伏を (草466— 4)
- 色々な事が (草519— 4)
- 色々な草花を (草466— 4)
- 色々な成分を (草464— 7)
- 色々なものが (草433—15)
- 色々な化物を (草440—12)
- 色々な調子が (草522— 5)
- 色々な理由も (草409— 4)
- 色々な買物を (草283—11)
- 色々な事を (雁325— 4)
- 色々な事を (雁359— 2)
- 色々な鳥の (雁365— 6)
- 色々な事情た (坊290—13)
- 色々な人に (雁285— 5)
- 色々な物の香を (雁298— 3)
- 円満なる家庭を (坊346— 4)
- 円満な動き方を (草494— 1)
- 円満の相に (草421—13)
- 寛大な御取計を (坊304—15)
- 寛大の御処分を (坊305— 4)
- 一間位なちよろちよろした流で (坊325— 2)
- 黒板一杯位な大きな字で (坊267— 6)
- 西洋料理屋位な格だ (坊300—12)
- 名前が云えない位な男だから (坊294— 1)
- こっちも負けん位な声を出して (坊278—12)
- 中学の教頭位な論法で (坊338—11)
- おれの顔位な大きな字で (坊344— 8)
- 鬼瓦位な大石見を (坊266— 2)
- 大森位な漁村だ (坊252—14)
- おれ位な声が (坊282— 2)
- 狭くした位な道幅で (坊259— 9)
- 五十位な年寄が (坊310—12)
- この位な辛抱が (草451— 2)
- 赤大根位なものだ (草427— 2)
- その位な事は (雁309— 1)
- その位な事は (雁318— 6)
- その位の腕なら (坊342—13)
- この位の事なら (坊260—12)
- 一ヶ月間の間は (坊265— 3)
- 考えて見よう位の挨拶を (坊315—10)
- 十間位の距離に (坊325— 9)
- 半分位の長さのを (坊318—13)
- 十五畳位の広さに (坊269— 9)
- 十日に一週位の割で (坊244— 3)
- その位の覚悟が (草417— 4)
- 食べられぬ位の事だろう (草392— 5)
- 思ふ位の事で (雁273— 6)
- 思ふ位の事は (雁379— 7)
- あの位の事は (雁391— 6)
- 歩く位のもので (雁272—11)
- 居る位のもので (雁281— 9)
- 真ん中位の処で (雁287— 5)

- 四十位の女が (山327— 2)
 府県知事位の官吏である (寒461— 7)
 ○顔位な大きな字が (坊344— 8)
 ●半分位の長さのを (坊318—13)
 高じ高さの二階なものには (草425—10)
 自分の体の大きさの入口を (雁356— 2)
 思ひ掛けぬ大きさの雁で (雁414— 3)
 腕の太さの木を (雁281— 1)
 ○至当な理由なくして (坊306—10)
 ●至当の処置と (坊307— 2)
 ○大切なものは (坊337— 9)
 大切な品は (山337— 3)
 大切な袋は (山337— 2)
 大切な物を (山369— 6)
 ●大切なものとは (草475— 7)
 ○大抵な人には (坊301— 4)
 ●大抵の事は (坊294— 7)
 大抵の者は (坊305—14)
 大抵の人には (雁364— 5)
 ○髭だらけな野武士が (草547— 2)
 ●しわ苔茶だらけの婆さんだが (坊287—15)
 こぶだらけの腕を (坊342—10)
 泥だらけの芹を (草477—10)
 ごみだらけの頭を (雁349—12)
 ○武士的な元気を (坊306—13)
 謝罪的な言葉を (坊368— 5)
 詩的な立脚地に (草417— 5)
 抽象的な興趣を (草458— 9)
 けいれん的な苦悶は (草466— 8)
 空間的な絵画上の (草459—10)
 楽観的な写象が (雁398—11)
 具体的な返事が (雁324— 7)
 絶対的な奴ばかり (雁292— 1)
 ●物質的な快楽ばかり (坊309— 1)
 世間的な人情を (草393— 8)
 出世間的の詩味は (草394— 5)
 芸術的な立脚地を (草415—15)
 詩的なものならば (草501— 6)
 ○同様な平和である (草544— 6)
 ●同様の間に (草511— 4)
 ○特別な仔細が (雁317— 2)
 ●特別の理由も (坊337— 6)
 特別の感興を (草456—15)
 ○花ばかりなる空を (草511—15)
 ●いささかばかりの菜園が (坊242— 1)
 一時間ばかりのうちに (坊287— 6)
 八寸ばかりの鯉を (坊282— 5)
 一丁ばかりの杉並木が (坊379— 6)
 言わぬばかりの狸も (坊320—14)
 言わぬばかりの有様が (草422— 9)
 二畳ばかりの岩の中に (草425— 4)
 六十ばかりの爺さんが (草448— 8)
 五尺ばかりの高さに (草513—13)
 四尺ばかりの深さに (草464— 6)
 十羽ばかりの雁が (雁407— 5)
 三人ばかりの島田やら (雁309—11)
 出たばかりの女中こそ (雁307— 2)
 五十ばかりのばあさんが (雁287— 8)
 それんばかりの物を (雁398— 1)
 奴ばかりのようで (雁292— 1)
 越えたばかりの女で (山332—13)
 ○遙かな所へ (草453— 2)
 遙かなる下から (草511—15)
 ●遙かの末は (草515— 2)
 遙かの向うで (草511—15)
 ○非人情な所が (草489—15)
 非人情な惚れ方を (草488— 2)
 非人情な読み方が (草488—14)
 ●非人情の旅には (草407—10)
 非人情の旅には (草425—15)
 非人情の天地に (草394—11)
 非人情の旅に (草537—14)
 非人情の余も (草530— 8)
 ○昔し風な庭を (坊347—12)
 ●昔し風の女だから (坊251— 7)
 ○風流な土左衛門を (草434— 7)
 ●風流の交わりか (草424— 4)
 ○猫の額程な町内の (坊253— 4)
 山嵐の羽織程な損害は (坊356— 4)
 斯程な変化を (草430— 5)
 へちま程な青い黄瓜を (草510—13)
 出来ない程な好い色が (草523— 2)
 一升ます程な煙草盆が (草399— 5)

袂時計程な丸い肉が	(草481— 6)	感じたるままの趣を	(草456— 4)
三尺程な岩の上に	(草389— 2)	そのままの姿で	(草466— 4)
八畳程な風呂場へ	(草464— 5)	そのままの姿と	(草526— 9)
豆腐屋程な湯槽を	(草464— 6)	綻びたままの着物を	(雁349—12)
●新聞程のほら吹きは	(坊366—10)	乱れたままの全体が	(雁312— 8)
是程の度胸は	(坊276—12)	そのままの店が	(雁272—13)
十坪程の平庭で	(坊375— 1)	○満足な肴の	(坊349— 5)
斯程の影響を	(草532— 2)	●満足の様子で	(坊382—14)
拮抗する程の影響を	(草448—13)	○冥漠なる調子とに	(草471—14)
三抱程の大きな松が	(草505—13)	●冥漠の裏に	(草462— 4)
醒むる程の帯地は	(草462— 5)	冥漠の戸口を	(草462— 4)
羊羹程の重味が	(草433— 1)		
どれ程の数になるか	(草421— 7)	用例集Ⅱ (補助資料)	
疲らす程の硬さを	(草475—12)	○「充分」	
思わる程の髪を	(草471— 2)	充分な補償を	(硝427— 1)
潤おす程のしめやかさで	(草465— 1)	充分なものでは	(硝477—13)
威張る程の字でも	(草479—13)	充分の意識を持って	(高230—12)
六畳程の小さな座敷へ	(草410— 7)	充分の勢力を	(青199— 2)
六丁程の近道に	(草410— 2)	○「遙か」	
三茎程の長い髪が	(草498—10)	遙かの下まで	(行119—10)
醒ます程の派出やかさの	(草499— 7)	遙かの海が	(行133— 4)
芽える程の春の庭に	(草413—10)	遙かの海の中へ	(行358—18)
見える程の深さに	(草482— 2)	遙かの上から	(夢65上— 9)
三丁程の平地と	(草424—14)	遙かの青草原の	(夢73中—29)
乱す程の細い枝を	(草511—14)	○「特別」	
同じ程の歩調を以て	(草462—11)	特別な関係に	(行325— 4)
あれ程のゆかしさも	(草479— 4)	特別な椅子へ	(行360—16)
気の付かぬ程の事の	(雁364— 3)	特別な興味を	(行 47— 6)
それ程の事の	(雁386— 5)	特別な注意を	(行319—10)
懐かしむる程の障害物が	(雁399— 1)	特別な世界に	(硝476— 4)
進める程の衝突を	(雁337— 9)	特別な女中は	(青253—12)
選手になる程の進歩を	(雁279— 6)	特別な用を	(青238— 2)
庭と言う程の物は	(雁297—10)	特別な女中の	(青238— 2)
着けている程の物が	(雁341— 5)	○「…位」	
する程の緻密な思慮は	(雁301— 3)	同じ位な年配の	(行 58—18)
どれ程の難所が	(山336—10)	同じ位な年配の	(行 26— 2)
こらえられぬ程の頭痛が	(寒462— 6)	此の位な事を	(行269—13)
○落ちたままなる雨の塊りを	(草405—10)	その位な手数は	(行 66— 8)
有のままなる姿として	(草405—10)	その位な事じゃ	(行228—13)
元のままなる冥漠のうちに	(草462—13)	その位の事言った	(行144— 9)
●有のままの宇宙を	(草419— 4)	吊る位なものです	(行380—15)
そのままの姿と	(草415— 9)	知らない位な人間で	(行 8— 9)

回る位なもので (行156—16)
 達せられる位な考えで (行342—17)
 面目ない位なものですから(行383—18)
 のぼる時位なものなのです(行340— 2)
 挨拶をとり交す位な程度に(行 62— 5)
 下宿位なもので (行104— 6)
 わら屋位なものよ (行166—10)
 そうです位な返答を (行 40—12)
 心得ている位の男だから (行212— 2)
 近すぎる位の位置に (行283— 6)
 その位の事なら (行127—17)
 その位の事は (行152—18)
 どの位の程度に (行323—15)
 どの位の時間が (行339— 4)
 顔を洗う位の氣力を (行 63— 4)
 一間位の土手で (行381—14)
 一間四方位のもので (行116—13)
 三寸位の赤い網が (行317—11)
 親指の爪位の大ききさしか (行381—16)
 二十才位の時分は (行213— 7)
 火のし位の大きさの (行315—17)
 見舞に行く位のことよ (行 61—15)
 年に一度位の割で (硝463—13)
 挨拶をしあう位の間がらで(硝451— 7)
 声を掛ける位の間柄で (硝458— 4)
 一週に一度位の割で (硝432— 4)
 どの位の月日を (硝482— 8)
 送ってやる位の所位は (硝439—11)
 侮辱する位の厚顔を (硝294— 4)
 二寸位の量に (硝437— 4)
 一箱に十位の割だった (硝497—14)
 ならない位のものだろう (硝450— 3)
 同年輩位のいたずら者で (硝421— 1)
 その位な事を (青 22— 2)
 その位な事は (青216— 7)
 それ位の事は (青 88— 7)
 帰ろう位の考えで (青183—11)
 三十位の男を (青164— 8)
 この記念位のものは (青236—10)
 小品位のものだろう (青 43— 7)

○「…風」

ヒステリ風な所は (行168—12)

下町風の育て方で (行223— 1)
 商人風の男だが (行103—11)
 と言った風のことばを (行 60—16)
 と言った風の今の兄さんに(行380— 3)
 と言った風の軽蔑または (行344—10)
 と言った風の聡明伶俐に (行387—10)
 と言った風の調子で (硝452— 3)
 と言った風の迫った心持を(硝499— 9)
 こう言う風なのが (青 16— 5)
 こんな風な資料が (青 93— 5)
 そんな風な目である (青 67— 9)
 書生風の自分を (青187— 3)
 芸術家風の青年音楽家が (青264—12)
 女学生風の少女に (青114— 9)
 藤岡白風の篆書を (青160— 2)
 書生風の男で (青 16— 4)
 書生風の男が (青 9—11)
 西洋風の夜の劇場で (青 66—10)
 西洋風のガラス窓二つから(青 13— 8)
 sparta 風の生活を (青231—12)
 VYLLA 風の西洋造りに (青 76— 4)

○「…程」

足る程ない器量を (行319—12)
 兆し得ない程なものを (行384—10)
 歩ける程の余裕は (行 89— 8)
 これと言う程の意見も (行106— 6)
 これと言う程の器量も (行101— 2)
 合槌を打つ程の稚氣も (行272—13)
 怒り得る程の勇氣を (行241—13)
 相手になり得る程の悪口屋で (行204—17)
 彼程の真をもって (行256— 1)
 答える程の勇氣も (行159— 7)
 これ程の養生をしている (行 39— 3)
 心配する程の事も (行 40—16)
 心配する程の事じゃ (行283—15)
 心配する程の病氣じゃ (行210—15)
 あえてする程の勇氣を (行379— 6)
 心配する程の事は (行112— 7)
 感じたりする程の余裕を (行158— 9)
 あえてする程の勇氣が (行 53— 4)
 それ程の度胸は (行161—17)

それ程の問題に (行322—11)
 しかりつける程の元氣も (行272—13)
 支度って程の支度も (行149—13)
 行かなければならない程の義理は (行 67—12)
 はたしてくれない程の大悠は (行338—13)
 涙を流す程の正しい人でも (行379— 5)
 そばにいてやる程の時間も (行 58— 2)
 それ程の胆力が (硝416— 4)
 目に立つ程の影響を (硝448—14)
 どれ程の利益を (硝496— 2)
 しない程の大空が (硝497— 7)
 してみる程の道楽氣も (硝450—14)
 有る程の菊投げ入れよ (硝473— 6)
 あざむく程の銜氣が (硝508— 7)
 隠す程の財産も (硝445—12)
 数え立てる程のものは (硝414— 4)
 腰程の高さに (夢66中—18)
 これと言う程の特色のものは (夢73上— 3)
 しわと言う程のものは (夢67上—20)
 触れない程な黄色を (青195— 1)
 ならないと言う程の utilitaire に (青161—12)
 音楽家程の熱情も (青265— 1)
 晝く程の事も無い (青 96— 5)
 くけひも程のきせる指しを (青179—12)
 それ程の遠慮も (青253— 1)
 知れない程の会釈をして (青 77— 4)
 用いない程の親しさを (青248—10)
 名付ける程の苦い味を (青 95— 8)
 四十日程の間 (青131—12)
 故郷の町程の大きさと (青 6— 7)
 やる程の価値は (青175— 4)
 どれ程の差が (高229— 1)
 半年程の間 (高234— 5)
 言われる程の儉約な生活を (高228— 6)
 欠けている程の世にも稀な悪人で (高225—15)
 背の幅程な紫がかったうすい笠は (普 19—13)

○「…的」
 感傷的な氣分に (行296—16)
 感情的な兄が (行190—12)
 機械的なもので (行271— 2)
 規則的な仕事を (行342—10)
 具体的な説明を (行286— 3)
 具体的な証拠を (行350—12)
 研究的な兄を (行309—18)
 研究的な僕が (行377— 1)
 原始的な叫びは (行372—15)
 詩的な兄は (行193—15)
 習慣的な言説よりは (行369—14)
 実行的な僕に (行377— 1)
 人工的な痕跡を (行330— 2)
 悲劇的な声を (行203—14)
 批評的な談話を (行384— 7)
 ロマン的な光は (行170— 5)
 一時的なことで (行255— 5)
 感傷的な所が (行 74—17)
 感情的な言葉に (行214—16)
 根本的なようだ (行376—18)
 社会的な地位ばかり (行257— 1)
 心理的なものだったので (行375— 1)
 実際の要件を (行 8— 7)
 断片的な光景は (行 85— 4)
 非紳士的な挨拶を (硝442—10)
 詰問的なものは (硝496— 7)
 營業的な売買に (硝447— 8)
 具体的なものなど (硝477—11)
 厭世的なことが (青105—11)
 機械的な詮索を (青210— 2)
 原始的な比喻を (青258— 3)
 古典的なシェイクスピアが (青 66— 3)
 衝動的なような (青141— 5)
 風刺的な語調から (青 55— 3)
 生産的な仕事では (青 28— 8)
 消極的な事ばかり (青 63—11)
 積極的な感じも (青 95—12)
 積極的なものを (青111—11)
 抽象的な議論ほど (青158— 6)
 超越的な方面が (青199—10)
 典型的な表情は (青158— 7)

典型的な翻訳は	(青 75— 8)	如何なる奇弁的關係を	(青235— 7)
暴露的な歌が	(青216— 6)	永遠なる若さも	(青205— 9)
比較的な言葉で	(青 99— 2)	可憐なるお雪さんは	(青144— 1)
物質的な事が	(青197— 1)	危険なる思想が	(青162— 1)
利己的なようなので	(青110— 9)	奇体なるものと	(青141— 2)
具体的例が	(青216— 6)	堅靱なる紙が	(青207— 8)
動物的の策励だ	(青220— 7)	堅靱なる縄を	(青143—12)
物質的の開化を	(青197— 3)	神聖なる場所を	(青245—11)
利己的の意義しか	(青109— 5)	重大なる出来事を	(青 65— 4)
反理性的の意志の	(青220—12)	似て非なるもので	(青 93— 3)
○「…質」		盲目なる作例が	(青133— 6)
神経質なことは	(行125—18)	無知なるお雪さんが	(青144— 1)
神経質な言語、	(青100—13)	無力なる行程に	(青 86— 1)
神経質の遺伝の	(青143— 3)	廉価なる喝采を	(青215—13)
		EYDSAM になることを	(青220— 4)
○鵠外の「～なる」		・ 大いなる…… 4 例	
偉大なる文学と	(青 37— 9)		